

2013年英文レター誌 SOLA 論文賞受賞者について

SOLA 編集委員長代行 竹見哲也

英文レター誌 SOLA 編集委員会では、一年間に SOLA に掲載された論文の中から、毎年一編程度の優秀な論文を選定し、SOLA 論文賞 (SOLA Award) として顕彰することとしています。2013年は、下記の論文を SOLA 論文賞として決定いたしましたので報告いたします。

SOLA, 2013, Vol. 9, 19-22, doi:10.2151/sola.2013-005

Seasonal Migration of the Baiu Frontal Zone over the East China Sea: Sea Surface Temperature Effect

by Qoosaku Moteki¹ and Atsuyoshi Manda²

¹ Japan Agency for Marine-Earth Science and Technology (JAMSTEC), Kanagawa, Japan

² Nagasaki University, Nagasaki, Japan

受賞理由：

本論文は、東シナ海北西部から黄海にかけての海面

温度 (SST) が、その経度帯での梅雨前線帯の緯度の季節進行を決めるというメカニズムを新たに提案するものである。同海域は水深が浅く熱容量が小さいため、冬季に水温が下がりやすい。本論文は、その効果が5月まで持続していることを、海洋内部の温度場より示した。さらに、この低温のために5月の黄海上は平均的にも高気圧となっており、梅雨前線の平均的な位置はその南の黒潮との境で SST 勾配が大きいところにあることを示した。また、その後黄海の表面が暖まるにつれて高気圧は消え、梅雨前線が北上し、7月後半には梅雨が明けて降水も減少することを、海中の温度と合わせてわかりやすく示した。

水深効果などの海洋内部のメカニズムをもとに梅雨の季節進行を論じる視点は斬新であり、梅雨研究の新しい方向性を示唆すると高く評価できる。今後、他の経度帯や上層との関連も含め、因果関係に踏み込んだ研究に発展することが期待される。

以上の通り、本論文の研究内容は高く評価できるものであり、SOLA 論文賞受賞論文として選定する。